

# イベント取材の夢が消えた後（その8）「元旦の日刊紙」 「実展示会かオンラインイベントか？」「CES 2021」

神谷 直亮

2021年の新年は、新型コロナウイルスとの闘いが続く中で迎えることになった。

1月1日付の朝日新聞によれば、「新型コロナウイルスの国内感染者は、31日午後10時時点で新たに4,520人が確認され、一日あたりの感染者数としては過去最多を記録した。東京都の感染者も1,337人に上り、初めて1,000人を超えて最多を更新した」という。

このような状況にかんがみて、初詣にいかないで読賣新聞、朝日新聞、日本経済新聞の3紙を読みふけた。読者の「巣ごもり正月」を想定してか、各紙ともテレビ放送や番組関連の記事に力を入れていた。中でも目立ったのが読賣新聞だ。同紙には、「4K 8K、次の主役」という大見出しの記事が掲載され、日本のテレビ業界における技術進歩を踏まえて4K8K超画質番組を興味深く紹介していた。

ここで特に取り上げられた4K番組は、



写真1 読賣新聞は、「4K 8K、次の主役」という大見出しを元旦号に掲げて、超画質番組を興味深く紹介していた。

NHK「BS4K」の「大岡越前SP」と「ライジング若冲」、BS日テレの「里見八犬伝」、BS TBSの「新・地球絶景紀行」、BS朝日の「新 鉄道・絶景の旅」、BSテレ東の「京阪沿線物語～古民家民宿きずな屋へようこそ」、BSフジの「海を渡った柿右衛門」であった。さらに8K番組に関しては、名城や屏風絵などをハイライトしたNHK「BS8K」の「国宝へようこそ」が紹介された。

元旦の日刊紙の新聞広告でも目を見張らせるものがあった。新年の意気込みを痛切に感じさせたのは、NETFLIX、WOWOW、スカパーの3社の広告だ。

NETFLIXは、朝日新聞に4面広告を掲載して、読者にその勢いを強力にアピールした。「想像と再生」「想像はつづく、再生はつづく」「一人じゃない、世界がある」を謳った同社の広告のアピール力は底が知れないように思われた。

WOWOWは、読賣新聞に見開き2ページと別途1ページの広告を載せた。見開き2ページでは、「見たい、の先へ。WOWOW」の見出しの下で「全豪オープンテニス」「電波少年W」「連続ドラマW、トックイ」など30番組を紹介し、もう1ページでは、開局30周年を記念して1月13日からスマホでもWOWOWが見られる「WOWOW オンデマンド」をスタートすると売り込んでいた。さらに「30周年を迎えるL' Arc-en-Ciel」をWOWOW

が2021年2月より数か月にわたり特集！未公開を含む厳選された映像の数々をWOWOWで独占放送！」と、前宣伝に余念がなかった。

スカパーも読賣新聞に1ページの広告を載せた。「いつも以上にたっぷり時間があるこのお正月、スカパーでじっくり映画でも見ませんか」「あなたのご自宅をおうちシアターに！」と優しく呼びかけて紹介したのは、「『無頼』より大幹部」（渡哲也主演）、「ろくでなし稼業」（宍戸錠主演）、「危ない刑事」、「砂の器」など8本である。

残念だったのは、今年の朝日新聞、日本経済新聞、読賣新聞には、宇宙（そら）の衛星（ほし）の記事は見当たらなかった。唯一目に付いたのは、朝日新聞に載った「講談社の未来の年表」という宇宙を視野に入れた一面広告だ。「おもしろい未来は、自分たちで、つくろう」という見出しのこの広告で、講談社は、創業111年を迎えた2020年から創業222年を迎える2131年までの想像力にあふれる年表を作成している。例えば、「2069年：漫画雑誌型のロケット『マガジン・エックス』月へ着陸」、「2107年：『惑星訪問お話し隊』スタート、宇宙に暮らす子供たちに読み聞かせの輪が広がる」、「2116年：本社の火星移転を検討も」、「2118年：フライデー編集部、金星支部OPEN」、「2126年：全宇宙での社員採用を開始」、「2128年：講談社本社タワーが宇宙ステーションと連結、地球と宇



写真2 年初恒例の「CES 2021」は、1月11日から14日までオンラインで開催された。（出典：ces.tech/media HP）



写真3 「CES2021」最終日の1月14日に、サムスンが最新のスマートフォン「Galaxy S21」、同S21Plus、同S21Ultraを発表した。（出典：samsung.com/s21）

宙エレベーターで繋がる」など、楽しさがいっぱいである驚きとワクワク感にも満ちていた。

「宇宙と衛星」に代わって日本経済新聞が取り上げたのは、「VR（仮想現実）、AR（拡張現実）、MR（複合現実）」だ。「DX（デジタルトランスフォーメーション）拓く」という大見出しのこの記事で、同紙は「バーチャル渋谷」「バーチャル新卒採用エキスポ」「仮想店舗」などをハイライトしている。

「バーチャル渋谷」は、KDDIを筆頭に約50社・団体が構成する「渋谷5Gエンターテインメントプロジェクト」が始めた渋谷区公認の配信プラットフォームである。利用者は、VRヘッドセットやスマホなどで、分身となるアバターを操作しながら渋谷を歩き回ることができる。

「バーチャル新卒採用エキスポ」と銘打った合同就職説明会を開催したのは、PR会社ベクトルだ。約20の企業が参加し、学生700人が参加したという。

「仮想店舗」を試みたのは、三越伊勢丹ホールディングスである。VR空間に店舗を設営して、アバターの店員が接客を試み、後日、購入品を届けたという。

一方、MRの分野では、マイクロソフトの「ホロレンズ」ヘッドセットを使って、マニュアル映像の活用や複雑な技術の遠隔支援を実現している。

その後、本稿執筆中の1月7日に菅首相は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、東京、埼玉、千葉、神奈川の1都3県を対象に緊急事態宣言を発令した。この宣言は、「新型インフルエンザ対策特別措置法」に基づくもので、期間は1月8日から2月7日の一か月間ということになった。思い出すのも嫌だが、緊急事態宣言の発令は、昨年の4月7日～5月25日以来、2度目である。さらに1月13日には、大阪、兵庫、京都など7府県を対象地域に追加している。

このように事態が急変して間もない1月12日に、リードエグジビションジャパンの田中岳志社長からメールが届いた。「今年、新規展示会47本を加え、過去最多の合計301本の展示会を開催する」という。新型コロナウイルスの感染拡大で経済活動が停滞している今こそリアルな展示会を通して業界の活性化と発展に貢献する必要性を強

く感じているように思えた。

一方、衛星放送協会からは、1月25日に明治記念館で実開催予定であった「2021年年度記者会見」を見送り、オンラインに切り替えるとの連絡を受けた。記者会見で「BS右旋帯域の再編」と「不正ストリーミングデバイスの対策」についての説明があるとのことと期待していたが残念である。理由は、言うまでもなく1月7日に緊急事態宣言が発令されたことによる。

実展示会を見送ったCP+事務局からも1月19日に「CP+2021オンライン記者発表会」を開催するとの連絡を受けた。併せて「Editors' Photo Award ZOOMS Japan 2021」の受賞者の発表をオンラインで行うことになったという。

世界的には、1月11日からデジタル技術やICTに特化した「CES 2021」が始まった。毎年年初にラスベガスで開催されるビッグイベントであるが、今年は、中国のハイセンス・ビジュアル・テクノロジー、韓国サムスン電子とLG電子、日本を代表するソニー、パナソニック、キヤノンなどによるオンライン報道発表で幕が開いた。

中国のテレビ市場をけん引するハイセンスは、新開発のRGBトリプルレーザー光源を採用した「TriChroma Laser TV」の100インチ限定モデル「100L9 PRO」に焦点を当ててプレゼンテーションを行った。

サムスン電子は、マイクロLED素子を採用した110インチディスプレイ「MicroLED TV」と、量子ドット技術をベースにミニLEDをレイヤー化した液晶テレビ「Neo QLED」を目玉にして売り込みに余念がなかった。

LG電子は、画面を巻き取り式にしたスマートフォンの試作機と同社初の有機ELモニター「32EP950」を紹介した。

「32EP950」は、4K解像度、1,000,000:1のコントラスト比を実現している。

「空を創造の場に変える」と意気込むソニーは、プロフェッショナルな映像制作を目的としたドローン「Airpeak」や歌手のアバターを合成してVR空間でライブ映像を制作するシステムなどを公開して意表を突いた。「Airpeak」機には、ソニー製のフルサイズミラーレス一眼カメラが搭載できて高画質映像の撮影が安定した状態で実現するというのが売り込みのポイントである。仮想ライブの狙いは、同社の「プレイステーションVR」ヘッドセットを活用してモバイル端末向けエンターテインメント配信サービスをスタートすることにあるようだ。「Better Life and Better World」をキーワードに掲げたパナソニックは、Automotive In-vehicle Infotainment、Tokyo Olympics、eGaming、Culinary Itemsを柱にしてプレゼンテーションを行った。

「CES 2021」最終日の1月14日になってホットなニュースが伝わってきた。サムスンが3種のスマートフォン（Galaxy S21、S21 Plus、S21 Ultra）の大々的な発表を行って締めくくったという。

「CES 2021」のサイトによると今回の出展者は約1,900社で、昨年の約4,400社から大幅減となっている。特にトヨタ、日産、ホンダなどオンラインでは効果が薄いと判断したのかそろって出展を見送ったのが痛かったようだ。

Naoakira Kamiya  
衛星システム総研 代表  
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

SMART SNG  
HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION  
スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizsat.jp>

ニッサン新エルグランド4WD  
5名定員  
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載  
車高2.2m以下（地下駐車場可）  
3.6 KVA NMG アイドリング運用  
水圧エコ・ボール4m 搭載  
強化サスペンション  
国内（100V）海外（240V）対応  
IPコントロール  
ハイビジョン映像伝送  
運転席からワンマンオペレーション



設計・製造・衛星通信のことなら  
エーティコミュニケーションズ株式会社  
TEL: 03-5772-9125

A Communications k.k.